

2008年2月13日 銀 林 浩

教育再生会議への批判

0) 臨時教育審議会（中曽根内閣）・教育改革国民会議（森内閣）・教育再生会議（安倍内閣）と、政府が教育に口を出すと碌なことがないのがまたも立証された。あたり前のことながら、日本の教育をねじ曲げて悪くしてきた張本人がいくら頑張ったからといって、よくする方策など出せるわけがない。

とくに今回の再生会議が発足した06年10月当時から、教育の専門家がひとりも参加していないこと、最初から安倍色が強すぎることに不安と危惧の念が持たれていた。案の定

「印象論や思いっぴきだけで議論しないことだ。過去の改革を検証し、専門家の意見に耳を傾けることも欠かせない。」（朝日新聞2月1日社説）

と評される始末。

1) 念のため私の主観的判断で、よい指摘と悪い提案とを箇条書きにして書き出してみたら、7:14となった。

例えば「教員が子どもの教育に専念できる体制」という提案は的を射ているが、それを妨げているのが、上意下達の管理体制の締め付けのせいであることには、触れられていない。また「真に必要な予算」といっているが、その中身はわからない。この表現そのものが遠慮がちの及び腰を表わしてはいないか？「歯止め規定は設けない」「教育格差が生じないよう」は正しいと思うが、具体的な内容は不明である。幼保一元化、体系的な幼児教育カリキュラムの確立は私も主張しているところだが、答申はそれがどうして達成されないかには触れられていない。

2) 悪い方は総じて、いっそうの管理強化と民主主義の撤廃を指向している。

「指導要領からの逸脱は許さない」「過度の性教育の規制」「教員本人の希望と承諾にもとづく人事慣行の見直し」「校長のリーダーシップ」「徳育の教科化」「習熟度別指導」「飛び級・飛び入学」「年齢主義の見直し」「競争原理の導入」「学校の統廃合」「幼児期から規律」「ヴァウチャ制度」「マネジメントとリーダーシップ」「学長選挙の廃止」など。

3) 各論の筆頭が「学力の向上に取り組む――未来を切り拓く学力」なので、とくにこの問題を考えよう。

文科省もマスコミも学力問題を取り上げる際、点数のような量的指標には関心を持つが「内容」はあまり論じられない。算数数学に限っていうが、指導要領の内容はそれこそ「数学的」にも「教育的」にも意味のないものが多い。それは指導要領を作る文科省のいわゆる「専門家」達が、「人間の知」というものをとんと誤解しているからである。

人間はたくさんの事を知ったり、繰り返して練習したりすることによって「わかる」わけではない。「注射針を見ただけで泣く子」のように、たった1回の体験でも深く「知る」のに十分である（条件反射）。

どうしたらそうなるかは、大人が頭を絞って教えてみなければわからない。これは大人が一方的に教えるというのとは違い、子どもに真剣に働きかけて試してみるという精神が必要である。

4) 具体例を1つだけ挙げておこう。現行(1998年版)の学習指導要領は算数低学年の加減指導について、1年は1位数、2年は2位数、3年は3位数ど語呂合わせのように学年指定をしている。つまり数の大きさによって学年を分けているのである。しかしこれはまったく意味がない。筆算というものは、数がいくら大きくなっても1位数同士の計算を繰り返せばできるのだから、困難がそんなに増えるわけではない。

なぜこんな不合理なことになっているかという、何回も同じことを繰り返すことによって習熟が図られるといわずに考えているからである。

5) ところが中央教育審議会の教育課程部会が発表した答申『幼稚園、小学校、中学校、高等学校及び特別支援学校の学習指導要領の改善について』を見ると、この傾向はとくに算数数学でいっそうひどくなっている。

「発達や学年の段階に応じた反復(スパイラル)による教育課程を編成」

「意味を理解する上で基盤となる素地的な学習活動を取り入れ」

「低学年から「数量関係」の領域を設ける」

「学年間で指導内容の一部を重複させる」

「低学年で、分数の意味を理解する上で基盤となる素地的な学習活動を行なう」

などのような文面が踊っているのである。

これこそ「愚民教育」もきわまれりというべきだろう。

6) これとは反対に、数学的に筋が通っていて、しかも適切な教具やシエーマを活用して教えると、子ども達は身体を使って意味を理解するばかりか、自分達で発展させるようになる。その姿はまさに、

「一を知って十を知る」(ことわざ)、「子どもといえどもガリレオ」(板倉聖宣)といえる。

7) その1例は5の「かんづめタイル」を使った加減や乗除の計算指導である。人間の両手の指の構造や日本式そろばんの構造をシエーマ化した教具は、子ども達が自由に操って結果を発見することができるからである。

また子どもが苦手とする分数概念も、共通尺度で測るということを分数図などのシエーマを活用して扱えば、らくらくと理解でき、あとは自分で考えられるようになる。

8) 要約すれば、教育というものは「経験科学」であって、「政策課題」ではないことを銘記すべきである。このはき違いを正すに最も早い方策は、強圧的な学習指導要領に(試案)の2文字を追加するだけでよい。要するに「自由」を回復することが、「再生」への最短通路である。

9) 教育再生会議が梯子を外されたことを指摘する向きが多いと思うが、せめて上述のよい指摘をいくらかでも改善する方向に向かって欲しいと思う。